

# Welcome to the サイエンス・ワールド!!

2013, 2, 12(火)

第61号

那覇市立教育研究所  
理科通信



「おそろべし塩酸!!」  
～絶対マネをしないでね～



昨年1月に6年生の「水溶液のはたらき」の単元を指導していたときのこと…。

理科室で購入する塩酸は  $12\text{mol/L}$ 。これを実験で使うときには、 $1\text{mol/L}$ と $3\text{mol/L}$ の2種類の濃度の塩酸を準備します。(1mol/Lは、酸性・中性・アルカリ性の仲間分け、リトマス試験紙の変化を調べる実験で使用する。3mol/Lは、水溶液に金属(鉄やアルミニウム)を溶かす実験で使用します)

そこで、濃度計算をし、計量したビーカーの水に、定量の塩酸を駒込ピペットではかり、試薬の調製をしたのだけれども…。「あっ！」

誤って、ピペットの先から薄める前の塩酸が一滴こぼれ、私の足の上に！

急いで、足についた塩酸を流水で流したため、皮膚の表面のやけどや炎症はなかったのですが、ストッキングの繊維が溶けてしまいました!?

とても冷やっとした瞬間でした。

翌日は、6年生の授業でこの話をし、改めて強酸・強アルカリの水溶液の危険性をみんなで確認したのでした。

小学校、中学校とも、理科の実験中にはいろいろな試薬を使う場面があります。教科書や先生の注意事項をしっかりと守って実験を行えば、安全なものですが、うっかりミスやいたずらで、自分や友達がけがや事故にあわないよう細心の注意を払って臨みましょう。



ストッキングには、バラの模様がついていました。試薬が飛び散ってこのような斑ができたわけではありません。

(文責：玉村かおり)